

バイブルによるイエス神格性の否定 (7/7) : 神とイエスは二つの なる存

:

明:

多くの人々は、バイブルの特定の章句を引用し、イエスの神格性を 明しようと みます。しかしながらこれらの章句の全ては、文 に った理解をすると正反 の事 を示すのです。

目:[事比 宗教イエス キリスト](#)

より: シャビ ル アリ

日 02 May 2011

集日 02 May 2011

たとえばマタイ9:2において、イエスはある人物にこう告げています: “
子よ、元 を出しなさい。あなたの罪は赦される。”

このことから、一部では神にして罪を赦すことは出来ないため、イエスが神であったはずだと主 します。しかしそこからの数 を み めるのであれば、人々の反 はこうだったのです: “人 にこれほどの 威をゆだねられた神を 美しだ。(マタイ9:8)

ここからも、人々はイエスが神からの 威を授けられた唯一の人物であったことを知っており、マタイもそれに同意していたことが明らかになっています。

イエス自身も、自らの 威によっては 言をしなにと しており(ヨハネ14:10)、自らは全くの 威を持たないが、父によって教えられたことのみを 言すると述べています(ヨハネ8:28)。ここでイエスが行ったことは、以下の通りです。イエスは男に し、神が彼をお赦しになったことを、神から授かった知 として えたのです。

留意すべきこととして、イエスは“私はあなたの罪を赦す”とは言わずに、“あなたの罪は赦される”と言ったことであり、それは神がその男(とユダヤ人の 者たち)を赦したことを意味しているのです。イエスに罪を赦す力はなく、その逸 において彼は自らを“人の子”(マタイ9:6)と呼んでいるのです。

またヨハネ10:30において、“私と父とはひとつである。”

とイエスが言ったため、それは度々イエスの神格性の明であるとされています。しかしそこから6先までみめると、イエスが彼のたちに、自らの神格性を主していたというのはいであるとしてイエスが明する面を出すことができます。ここで明らかにイエスが意味しているのは、彼と父が目的においてひとつであるということなのです。またイエスは、彼と父がひとつであるように、弟子たちもひとつであるよう祈っています。彼は弟子たち全がひとりの体となることを祈っていたのではないのです（ヨハネ17:11、22参照）。そしてルカが弟子たちはひとつであると告したのは、彼らがひとりの人になったことを意味するのではなく、彼らはそれぞれ独立した人ですが、目的において共通していたという意味なのです（使徒行 4:32参照）。イエスが「ふたりによる言」と述べていることから、存性においてイエスと父はふたりなのです（ヨハネ8:14 18）。ひとは他方よりも大であるということからも、彼らはふたりでなければなりません（ヨハネ14:28）。イエスが十字架からの救出を祈ったとき、彼は言いました：“父よ、御心なら、この杯を私から取りのけてください。しかし、私のいではなく、御心のままに行ってください。”（ルカ22:42）

イエスは父の御心に ってはいましたが、ここからもそこにはふたりの の意思があったことがわかります。ふたりの意思とはふたりの存在を意味します。

さらに、イエスはこのように言ったことが 告されています：“

わが神、わが神、なぜ私をお てになったのですか（マタイ27:46）

どちらか片方がもう片方を てたのであれば、そこにはふたりの 々の存在がなければならぬはずなのです。

また、イエスはこのようにも言っています：“父よ、私の を御手にゆだねます。”

（ルカ23:46）

片方の がもう片方の手に渡るということは、それらは 々の存在でなければなりません。

